

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 21 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04550

研究課題名(和文) 中国経済台頭への対応：日本、インドとアセアン

研究課題名(英文) Responses to China's economic expansion: Japan, ASEAN and India

研究代表者

絵所 秀紀 (ESH0, HIDEKI)

法政大学・比較経済研究所・研究員

研究者番号：10061243

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、地域研究、国際経済学、経済地理学、およびマクロ経済学のアプローチから、日本、アセアン、インドの中国経済台頭への対応および日本経済への影響を解明することである。現地調査に基づいた研究とデータベースを用いた実証分析を行った。

"Changing Dynamics of the Great-Sphere of Asian Economy: Industry and Development"というテーマの下で、2018年度、2019年度と2回におよぶ国際会議を行った。プロシーディングスは法政大学比較経済研究所のワーキングペーパー(No.211, No.216)として公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、中国との比較において、(1)モディ政権下でのインド経済の成長の軌跡を明らかにし、雇用なき成長、国際価値連鎖への参入の低さという特徴を明らかにしたこと、(2)インドのいくつかの産業(タイヤ、自転車、トラクター、養殖エビ、研磨ダイヤモンド)に焦点をあてて、その成長と特徴を分析したこと、(3)中国のグローバル経済への参入が日本企業に与える影響を分析したこと、(4)ベトナムの二輪車部品産業部門に進出した小規模な中国企業の生産の特徴を明らかにしたこと、等にある。

また社会的意義は、アジア経済圏における中国のプレゼンスの大きさを再認識させたことである。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to clarify the responses of Japan, ASEAN and India to rising Chinese economy and its influences on Japanese economy in terms of regional study, international economics, spacial economics, economic geography, and macro-economics. We conducted researches based on field studies and empirical analysis using data base.

We organised international conferences two times in fiscal 2018 and 2019 under the title of "Changing Dynamics of the Great-Sphere of Asian Economy: Industry and Development". Proceedings of these conferences are published as Working Papers (No.211, and No. 216) of the Institute of Comparative Economic Studies of Hosei University,

研究分野：インド経済論、開発経済学

キーワード：中国とインド 国際価値連鎖 企業の国際競争力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 「一帯一路」構想推進の下で、中国によるアジア経済圏再構築の動きが明確になってきた。またこの動きの一環として中国主導の下でアジアインフラ投資銀行が設立され、アジア各国はこうした中国の動きに対応を余儀なくされている。また日本が主導権を握って推進してきた、RCEP(東アジア地域包括的経済連携)の締結に向けての動きも活発化していた。日本、アセアン諸国、そしてインドをはじめとする南アジア諸国は、それぞれの立場から中国経済の台頭に様々な対応をしてきた。これが本研究開始当初の背景の一つである。
- (2) もう一つの背景は、経済のグローバル化の深化である。とくにアジア諸国は、グローバルバリューチェーン(GVC)に深く関与する形で成長を実現してきた。中国経済台頭によって、アジア各国の産業のGVCへの関与がどのように変化あるいは成長しているのか、具体的な分析が必要とされていた。

2. 研究の目的

- (1) 本研究の目的は、地域研究、国際経済学、経済地理学、およびマクロ経済学のアプローチあるいは手法を用い、中国経済台頭に対する日本を含むアジア諸国の対応を調査することである。
- (2) とくに中国と並んで21世紀のアジア経済の動向を左右するとみなされているインドの対応を、政府レベルおよび産業レベルで検討することに重点を置いた研究を遂行することを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 既存研究やデータの整理を行う。
- (2) 現地調査に基づいた調査を遂行する、およびデータベースを利用した実証研究を進める、の双方をおこなう。地域研究者とエコノミストの双方のアプローチを重ね合わせることによって、より重層的な分析が可能になるとの考えである。

4. 研究成果

- (1) 絵所秀紀は、モディノミクスの成長戦略について、経済成長率やインフレ率などのマクロ経済指標は満足のいく結果を示しているが、インドの製造業の成長という目標が達成されたことを示す十分な証拠は見当たらないことから、「雇用なき成長」が持続していることを明らかにした。そして十分な雇用機会を創出するためには、グローバル・バリューチェーン(GVC)に参加する形での輸出志向工業化戦略を採用すべきであると提言している。この研究との関連で絵所は、インドの大メコン経済圏へのコミットメントがきわめて弱く、その要因の一つが、中国とは対照的に、アジア経済圏に成立している地域価値連鎖へのインド企業のコミットメントがほとんど見られないことを明らかにした。
- (2) また絵所秀紀は、インドとアセアンの現地調査に基づいて、GVCの観点から中国との比較を念頭において、素材型産業からタイヤ産業、組立型産業から自転車産業とトラクター産業、そして輸出向けの加工貿易型産業から養殖エビ産業と研磨ダイヤモンド産業の合計5つの産業を選び、これらインドにおける諸産業の成長の軌跡と特徴を明らかにした。インドのタイヤ産業は1990年の経済自由化以降、輸入品を含めた激しい競争が展開されているが、現在までのところ、外資系企業を抑えてインド地場企業が大半の市場シェアを占めている。その主要原因として、インドではトラック・バス向けタイヤ部門に大規模な外資系企業の進出がみられないこと、そして当該部門ではパイアス・タイヤが支配的であることを指摘した。インドの自転車産業は中国でみられたような革新が見られなかった。その原因としてGVCに参加することなく、依然として閉鎖的な環境下で延命している点を指摘した。インドのトラクター生産は世界第1位であるが、その原因を輸入代替を成功裡に成し遂げ輸出競争力を強化してきた経過として描き出した。養殖エビ産業はアジア諸国を中心に主要な外貨獲得産業として発展してきたが、インドも例外ではなく、2000年以降バナメイエビ養殖を中心に急速に成長している。GVCに参加することによって順調な成長を遂げた産業として描き出した。研磨ダイヤモンド産業は、インドにとって最重要な外貨獲得産業である。競争力の源泉は当初は低賃金労働者を利用した小粒ダイヤモンドの研磨であったが、その後

GVC に参加することによって順調にアップグレードを達成し、世界最大の生産地にまで上り詰めたプロセスを描き出した。

- (3) 胥鵬は、中国の鉄鋼産業の過剰生産能力が指摘されてきた点に着目して、倒産再生の適用を申請した香港株式市場と上海株式市場に上場している国営鉄鋼会社を事例に、過剰生産能力の対策として整備された倒産清算と倒産再生のプラットフォーム及び米国の著名企業再生ファンドを含む投資ファンドの役割を明らかにした。ついで、1990 年以降の日本企業のダウンサイジングと退出の背後にある中国企業のグローバル経済への参入による国際競争激化の様相を分析し、中国経済への教訓を提示した。
- (4) ついで胥鵬は、中国研究者との共同研究において、2004 年の中国投資承認制度改革の準自然実験をベースに、承認制度改革がゾンビ企業のクリアランスに与える影響とそのメカニズムを、二重差分法を用いて実証的に検証した。この結果は、ゾンビ企業の自己生成能力を大幅に向上させたことに起因する。ただし、私営企業や競争企業とは異なり、国有企業や独占産業の特殊性が改革の効果を弱めていると指摘している。
- (5) 藤田麻衣は、現地調査に基づいて、ベトナムの国内市場向け生産を目指して進出した中国の小規模な二輪車部品企業がどのような特徴を備えているかを分析した。そして共通部品の中国サプライヤーは、既存の組立企業から独立して「自律的国際化」を進めていることを明らかにした。この研究は、第 30 回 SASE 年次総会でも報告された。さらに、中国市場の変化とイノベーションについての共著論文が European Journal of Development Research に掲載された。ついで藤田は、ベトナムの二輪車部品産業における台湾とベトナムのサプライヤーが OEM サプライヤーであり続ける中で、他産業へと多様化している様子を描きだした。
- (6) 近藤章夫は、急速にグローバル化が進展する状況下での都市間競争の激化と、それにとまなう都市経済の構造的変化および都市再開発への影響について東京を事例にとりあげ、歴史的かつ地理学的に考察した。また日本企業の国際競争力の源泉を探る目的で、松下電器を事例にとりあげ、高度成長期から 1990 年代までのわが国の電機・電子産業におけるサプライヤー・システムの形成と変容の内実を明らかにした。
- (7) 武智一貴は、国際貿易の基本推定モデルである重力モデルを用いて推定を行い、伝統的に重要とされてきた市場間の距離が地域間取引の疎外要因になっていることを確認した。ついで、貿易コストの要因を分析するために国内輸送の主要手段である道路輸送に焦点をあて、日本の道路事故データを用いて、道路輸送にかかわる貿易コストの要因として、渋滞および事故原因の種類を明らかにした。さらに武智は、2001 年にわが国が課したセーフガード政策が、輸入財および国内生産財に及ぼす影響を検討し、一時的な輸入制限措置は輸入財の生産者と消費者の双方にとって有害であり、また国内市場向け生産者にとっても有益ではないことを明らかにした。
- (8) 森田裕史は、マルコフ転換ベクトル自己回帰モデルを用いて、日本の財政政策の構造変化点と各レジームにおける財政乗数の大きさを検証した。今後、中国・インドなどの分析に応用することを模索している。
- (9) 田村晶子は共同研究において、日本の製造業企業の投資戦略が防衛型か探索型かを調べた。中長期計画の設定や投資タイミングの認識、事前と事後の採算性のチェックなどの伝統的な投資マネジメントが、防衛型傾向が強い企業では業績にプラスの影響を与える一方、探索型傾向が強い企業ではマイナスの影響を与えることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 87
2. 論文標題 インドにおける農業機械化進展の特徴—トラクター産業を中心に—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 201-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 32
2. 論文標題 Modinomics 1.0 and the Indian Economy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Interdisciplinary Economcis	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0260107919875569	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 212
2. 論文標題 開発経済学の中で貧困はどのように捉えられてきたのか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Ko, J-H. and Morita, H.	4. 巻 87(5)
2. 論文標題 Regime-Switches in Japan's Fiscal Policy: Markov-Switching VAR Approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Manchester School	6. 最初と最後の頁 724-749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/manc.12261	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊攻研・劉紅・胥鵬	4. 巻 3
2. 論文標題 跨境積極主義投資と日本“失われた20年”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文論	6. 最初と最後の頁 171 - 187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 楊攻研・范琳琳・胥鵬	4. 巻 221
2. 論文標題 ”簡政放権”与僵尸企業出清:以投資審批制度改革為例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 經濟評論	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19361/j.er.2020.06.01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nobumasa Shimizu, Keisuke Oura and Akiko Tamura	4. 巻 88(4)
2. 論文標題 Matching Capital Investment Management with Business Strategy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 經濟志林	6. 最初と最後の頁 403-427
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 John Humphrey, Ke Ding, Mai Fujita, Shiro Hioki, and Koichiro Kimura	4. 巻 30(3)
2. 論文標題 Platforms, Innovation and Capability Development in the Chinese Domestic Market	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The European Journal of Development Research	6. 最初と最後の頁 408-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41287-018-0145-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Toru Fujiwara, Kazutaka Takechi	4. 巻 213
2. 論文標題 Drinking, Texting, or Getting Old: Which One is the Most Dangerous While Driving?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ICES working paper	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 86(2)
2. 論文標題 国際価値連鎖とインドの自転車産業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 1-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 86(3/4)
2. 論文標題 インドの大メコン圏へのコミットメントーC L M Vとの関係を中心にー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 331-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Esho	4. 巻 14(1/2)
2. 論文標題 Comment on "India's Economic Reforms: Achievement and Next Steps"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 63-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 85
2. 論文標題 「国際価値連鎖の中のインドのタイヤ産業」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 85-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 669
2. 論文標題 「『モディノミクス』とインド経済のパフォーマンス」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武智一貴 (Kazutaka Takechi)	4. 巻 207
2. 論文標題 Daily Gravity	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ICES Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤章夫	4. 巻 63
2. 論文標題 産業立地と都市再開発からみた東京の変貌	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 304-319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤章夫	4. 巻 85
2. 論文標題 イノベーションシステムとしての東京大都市圏に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 487-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤章夫	4. 巻 85
2. 論文標題 電機・電子産業におけるサプライヤーシステムの形成と変容 松下電器の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 747-774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 88
2. 論文標題 外貨獲得産業としてのインド・エビ養殖業の発展	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 179-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 絵所秀紀	4. 巻 88
2. 論文標題 インドにおけるダイヤモンド産業の勃興と発展	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 547-585
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akio Kondo, Hideki Esho	4. 巻 211
2. 論文標題 Changing Dynamics of the Great-Sphere Asian Economy: Industry and Devvelopment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ICES Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Esho, Pebng Xu	4. 巻 216
2. 論文標題 Changing Dynamics of the Great-Sphere Asian Economy: Industry and Development (Part 2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ICES Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 武智一貴
2. 発表標題 Drinking, Texting, Being Young, or Getting Old: Which One is the Most Dangerous While Driving?
3. 学会等名 日本国際経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 絵所秀紀
2. 発表標題 Comments on Prabir De and Sunetra Ghatak "Assessing Regional Disparity in Asia-Pacific: An Empirical Investigation"
3. 学会等名 ICES 2019 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 絵所秀紀
2. 発表標題 インドにおける農業機械化進展の特徴—トラクター産業を中心に—
3. 学会等名 人間文化研究機構・RINDAS 研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森田裕史 (Hiroshi Morita)
2. 発表標題 Forecasting Public Investment Using Daily Stock Returns
3. 学会等名 13th International Conference on Computational and Financial Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Empirical Analysis on the Effects of Japanese Fiscal Policy under the Effective Lower Bound
3. 学会等名 The 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Empirical Analysis on the Effects of Japanese Fiscal Policy under the Effective Lower Bound
3. 学会等名 WEAI 15th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田裕史 (Hiroshi Morita)
2. 発表標題 Empirical Analysis on the Effects of Japanese Fiscal Policy under the Effective Lower Bound
3. 学会等名 日本財政学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mai Fujita
2. 発表標題 Chinese Industrial Organisation Goes Abroad: Suppliers' Strategies for Growth and Value Capture
3. 学会等名 30th Society for Advancement of Socio-Economics (SASE) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Peng Xu
2. 発表標題 Going Concern Note, Downsizing and Exit
3. 学会等名 富山大学法と経済学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Esho
2. 発表標題 Modinomics and the Performance of Indian Econom
3. 学会等名 Edinburgh-Kobe Dialogue on Economic Development in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 絵所秀紀
2. 発表標題 国際価値連鎖からみたインドのタイヤ産業
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 絵所秀紀
2. 発表標題 Indian Tire Industry in Global Value Chain
3. 学会等名 ICES 2018 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 胥鵬(Peng XU)
2. 発表標題 Bankruptcy Reorganization in China-the Case of Chongqing Iron and Steel
3. 学会等名 ICES 2018 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武智一貴 (Kazutaka Takechi)
2. 発表標題 Daily Gravity
3. 学会等名 日本国際経済学会第76回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田麻衣 (Mai Fujita)
2. 発表標題 Suppliers' Autonomous Internationalization: A New Path for Chinese Industries Going Abroad
3. 学会等名 ICES 2018 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田麻衣
2. 発表標題 How Suppliers Navigate Across Industries: Diversification of Motorcycle Components Firms in Vietnam
3. 学会等名 ICES 2019 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Peng Xu & Sumio Saruyama
2. 発表標題 Misallocation of Internal Fund to Loss Making Zombie Businesses in Electronics Industry
3. 学会等名 ICES 2019 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武智一貴
2. 発表標題 Do Domestic Producers Benefit from Safeguards? The Case of a Japanese Safeguard on Chinese Vegetable Imports in 2001
3. 学会等名 ICES 2019 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 長崎暢子 柳澤悠、井坂理穂、藤井毅、脇村孝平、粟屋利江、弘中和彦、中島岳志、近藤則夫、絵所秀紀、田辺明生、子島進、山根聡、佐藤宏、井上恭子、杉原薫、大石高志、伊豆山真理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 468 + 141
3. 書名 世界歴史体系・南アジア史・近代・現代 4	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田村 晶子 (TAMURA AKIKO) (30287841)	法政大学・経済学部・教授 (32675)	
研究分担者	藤田 麻衣 (FUJITA MAI) (50450507)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター東南アジア I I 研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究分担者	胥 鵬 (XU PENG) (60247111)	法政大学・経済学部・教授 (32675)	
研究分担者	近藤 章夫 (KONDO AKIO) (60425725)	法政大学・経済学部・教授 (32675)	
研究分担者	森田 裕史 (MORITA HIROSHI) (70732759)	法政大学・比較経済研究所・准教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	武智 一貴 (TAKECHI KAZUTAKA) (80386341)	法政大学・経済学部・教授 (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 ICES 2018 International Conference "Changing Dynamics of the Great-Sphere Asian Economy: Industry and Development"	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 ICES 2019 International Conference "Changing Dynamics of the Great-Sphere Asian Economy (Part 2)"	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関